
バツ～50番目の被害者～

ありす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バツ〜50番目の被害者〜

【Nコード】

N2897B

【作者名】

ありす

【あらすじ】

手を入れたらその手も溶け込んで。善か悪か分からなくなってきた。どうして？いけないの？

1 ゲーム目・選択（前書き）

この話はフィクションです。この話の中の決まりや憲法は一切存在
しません

1ゲーム目：選択

いつも通りの時間の進み。

毎日毎日同じ事を何回も何回も繰り返すんだ。

だったら楽しまなきゃ…ね？

重要な話のつまらない時間。

前にたっているのは河童。

……………夢だ。

スミマセン。先生、河童に見間違えました。

「おい。斗望^{トモ}お前うなされてたぞ。」

「まじ??いや、河童に襲われてて…」

「うっわ。流石天才。見る夢からおかしい。」

「何を言っているんだい？由希君。上には上がいるんだよ。」

「。。。いやみ?」

いやみだろう。斗望はトップクラスの成績を持つてるのだから。

「だって夜は忙しいから…」

「なに?」

「なんでもね」

朝霧斗望

17才

職業：学生

殺し屋

夜の仕事は忙しい。

辺りはもう暗く、人一人いないくらいだ。

「トモ今度はこいつだ。」

「タクさんまた仕事？」

手に持っているのは若い女の写真。

「お前はこいつを殺したら50人目。ランクがあがっぞ。」

「そんな、俺は下っ端でいいですよ。ここにいさしてくれれば」

タク そう言われてる男はこの長。

斗望はこいつに好かれてるのか使われてるのか…

「いいか？トモをこの世界にいれてやったのは俺だ。」

「悪かったよ。タクさん」

「忘れんな」

一瞬の沈黙があつてからすぐに用件をすました。

「はあ」…

真辺久美。大手会社の社長令嬢…ね」

パツリと呟く

「人生いろいろ。楽しまなきゃ…ね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2897b/>

バツ～50番目の被害者～

2010年10月26日05時30分発行